

6. ワラデッポウにみる歴史的風致

(1) はじめに

藁束で地面を叩く年中行事は、全国各地でみられるが、その名称、日程、掛け声などは地域によって様々である。本市では、「ワラデッポウ」、「ボウジボ」などと呼ばれ、十五夜（旧暦8月15日）や十三夜（旧暦9月13日）に行われている。なお、ワラデッポウという名称は、行事を指す場合と、行事に使用する藁製の叩き棒を指す場合がある。（以下、行事をワラデッポウ、藁製の叩き棒を藁鉄砲と表記する。）

ワラデッポウは、藁の中に芋柄いもがらなどを入れて縄を巻いた藁鉄砲を作り、子供が集団で集落内の各戸を訪問し、豊作を願う掛け声を唱えながら、藁鉄砲で地面を打ちまわり、供え物やお小遣いをもたらう行事である。ワラデッポウの由来は掛け声の内容などから作物の豊作を祈願する意味合いが強いと考えられている。また、全国各地の月見に関する行事と同様、ワラデッポウの日には、各戸で縁側にすすきや団子などの供え物をする事から、収穫を感謝する意味合いもあると考えられている。

本市において現在もワラデッポウが行われているのは、主に南河内地区の吉田地域である。明治44年（1911）の『吉田村郷土誌』では、「月見祝をする。秋の七草、柿栗などを飾り野菜を供える。子供は巻藁を打ち各戸を廻る。その唱えごとに“大麦あたれ、小麦あたれ、三角畑の蕎麦あたれ”などと唱えて金銭、食物をもらう。」と記述されている。



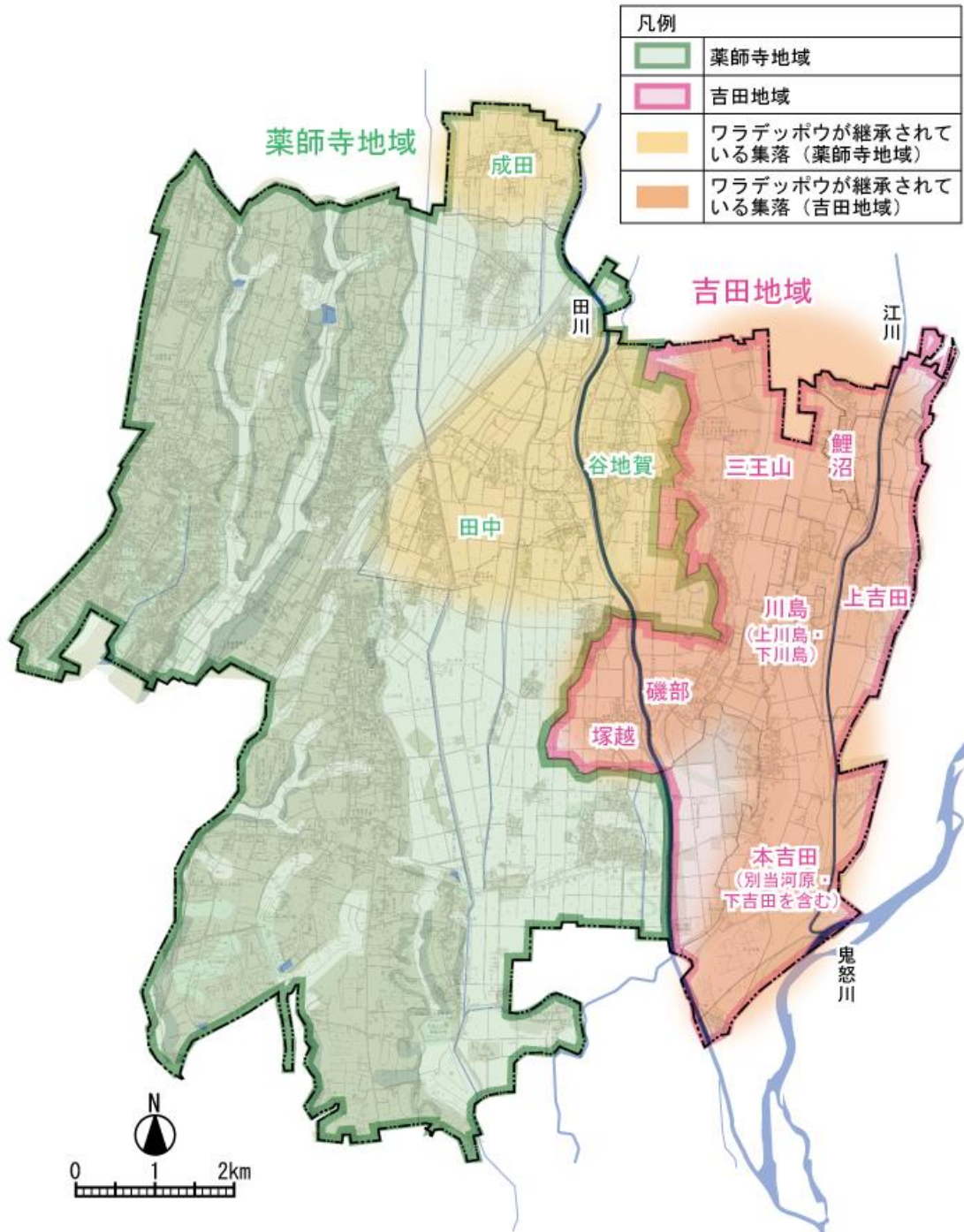
ワラデッポウの様子

<『わたしたちの下野市（社会科副読本）』>

(2) 下野市のワラデッポウ

南河内地区は、東部に鬼怒川沿岸の低地、中央部には南流する田川沿岸の低地を有し、その間に東に三王山台地、西に祇園原台地が南北に発達している。耕地利用は古くから水田が多くを占め、灌漑用水も発達している地域であり、豊作祈願や収穫感謝の意味合いを持つワラデッポウの行事が維持・継承されてきた背景の一つと考えられている。

本市におけるワラデッポウは、薬師寺地域の成田、田中、谷地賀、吉田地域の磯部、塚越、鯉沼、三王山、上吉田、本吉田（いそべ別当河原、さんのうやま下吉田を含む）、川島で現在まで継承されている。



下野市のワラデッポウ実施範囲

下野市におけるワラデッポウの概要（平成29年度調査）

実施箇所	呼び方	時期	参加者	菓鉄砲の制作	掛け声	行事後の菓鉄砲	供物	
吉田地域	磯部	ワラデッポウ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 当日または前日に自宅で父母（祖父母）が作る 学校の祖父母参観時に祖父母と一緒に作る 近所のお年寄りの家で作ってもらう ※新菓を使用する 	<ul style="list-style-type: none"> 十五夜のワラデッポウ大麦、小麦、大豆も小豆もみなあたれ、三角畑に蕎麦あたれ、おまけに一つ、二つ・・・十五（十三） 十五夜（十三夜）のワラデッポウ大麦、小麦、三角畑の蕎麦あたれ、一、二・・・おまけに一、二・・・十五夜（十三夜）のワラデッポウ、大麦、小麦、三角畑に蕎麦あたれ 	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける ※柿の木と決まっている家もある 	<ul style="list-style-type: none"> すすき（十五夜は5本、十三夜は3本） 団子 けんちん汁 新米 栗 柿 ※栗・柿はすすき同様5個、3個とする家もある ※サツマイモ、豆腐を供える家もある
	塚越	ワラデッポウ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 十五夜の前に家で祖父、または父母が作る ※小学校3・4年生は祖父母参観の時に自分で作ることもある 	十五夜（十三夜）のワラデッポウ、大麦、小麦、三角畑に（の）蕎麦あたれ、大豆も小豆もみなあたれ、十五夜（十三夜）のワラデッポウ	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける ※家の中に置いておくこともある 	<ul style="list-style-type: none"> すすき（十五夜は5本、十三夜は3本） 団子 けんちん汁 新米 栗 柿 サツマイモ ※いなりずしを供える家もある
	鯉沼	ワラデッポウ一部「ポウジボ」	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅または父母の実家で祖父母が作る 近所のお年寄りに作ってもらう 	十五夜（十三夜）お月鉄砲打って踊れ（あたれ）三角畑に蕎麦あたれ	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける 	<ul style="list-style-type: none"> 団子 すすき 柿（枝付き） 栗 新米 けんちん汁
	三玉山	ワラデッポウ（一部「ポウジボ」）	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅で父または祖父母が作る 小学校の祖父母参観で作る 	大麦、小麦、三角畑の蕎麦あたれ、エイヤ（エイ、エイ） ※2～3回繰り返す	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける（十三夜後） 	<ul style="list-style-type: none"> けんちん汁 団子 すすき 栗 柿
	上吉田	ワラデッポウ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅や父母の実家で父母または祖父母が作る 保育園の祖父母参観で作る 	大麦、小麦、三角畑の蕎麦あたれ、いち、にの、さん（のよ）	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける ※玄関先に置いておくこともある 	<ul style="list-style-type: none"> すすき 白飯 けんちん汁 サツマイモ 団子・赤飯
	本吉田（北） ※別当河原を 含む	ワラデッポウ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅で祖父母が作る 	大麦、小麦、十五夜（十三夜）のワラデッポウ、（今年は豊年だ）三角畑に蕎麦あたれ	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける 木に掛けず外に置いておき、朽ちたら捨てる 	<ul style="list-style-type: none"> けんちん汁 白飯 すすき 柿 栗
	本吉田（南） ※下吉田を 含む	ワラデッポウ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅や祖父母宅で父または祖父母が作る 近所のお年寄りに作ってもらう 小学校の祖父母参観で作る 	大麦、小麦、十五夜（十三夜）のワラデッポウ、今年は（も）豊年だ、三角畑の（に）蕎麦あたれ	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける ※家の中に置いておく、来年まで保管しておくこともある 	<ul style="list-style-type: none"> すすき 団子 けんちん汁
	川島 （上川島、中川島）	ワラデッポウ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 前日に自宅（祖父母宅）で祖父が作る 	大麦、小麦、三角畑（三角ばった）蕎麦あたれ、十五夜（十三夜）のワラデッポウ ※「十五夜の～」を先に言う場合もある	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける 捨てる（朽ちたら） ※神棚に飾る家もある 	なし
薬師寺地域	成田	ポウジボ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅で父または祖父が作る 	十五夜（十三夜）お月、三角畑に（で）皆よく（みのよく）実れ、大豆も小豆も皆よく（みのよく）実れ	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛けて、その後捨てる 	<ul style="list-style-type: none"> 団子 すすき けんちん汁
	田中	ポウジボ	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅で父、祖父が作る、または近所のお年寄りに作ってもらう 	ポウジボあたれ、三角畑の（に）蕎麦あたれ ※2～3回繰り返す	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける（柿の木） 	<ul style="list-style-type: none"> すすき 新米の白飯 けんちん汁 豆腐
	谷地賀 （薬師寺小 地域）	ワラデッポウ（一部「ポウジボ」）	十五夜のみ	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅で父または祖父が作る 	うさぎ、うさぎ、何見て跳ねる、十五夜お月さま見て跳ねる、大麦あたれ、小麦あたれ、三角畑に蕎麦あたれ、大豆も小豆もみなあたれ、もうひとつおまけに一つ、二つ、・・・十	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける（柿の木） ※来年まで保管しておく、何もしいこともある 	<ul style="list-style-type: none"> すすき 柿（枝葉付きのもの） 栗（枝葉付きのもの） サツマイモ けんちん汁
	谷地賀 （吉田東 地域）	ワラデッポウ（一部「ポウジボ」）	十五夜十三夜	小学生の男女	<ul style="list-style-type: none"> 数日前に自宅または祖父宅で父または祖父が作る 	大麦、小麦、三角畑の蕎麦あたれ ※2回繰り返す	<ul style="list-style-type: none"> 木に掛ける 家に置いておく 	<ul style="list-style-type: none"> すすき けんちん汁 団子 柿 栗

1) 藁鉄砲の制作

藁鉄砲は、十五夜の数日前に、祖父母や父母、または近所のお年寄りに作ってもらうことが一般的である。

吉田地域にある市立吉田保育園では、毎年十五夜参観日と呼ばれる祖父母参観が行われ、園児は祖父母と一緒に藁鉄砲作りを行う。この時に作った藁鉄砲を行事の当日に使用する子供もいる。

使用する藁は、主にその年に刈り取った稲藁である。藁を直径5cm以上の円が作れるほどの束にして揃えた後、根本から約5cmのところから藁を撚^よって縄にしたもので巻いていく。藁を撚^よって縄にする技術は難しく、現在は麻縄やビニル紐を使って藁束を束ねる場合も多い。藁束が太いほど丈夫な藁鉄砲になるため、なるべく藁を多く使う、もしくは芯に植物の茎を据えて周囲を藁で包んでから巻く。穂先約10cmの部分は、持ち手となるため巻かずに残し、3つの束に分けて両端の束をそれぞれ撚^よって縄状にし、はずれないように結ぶ。最後に中央の束をはさみで切り取って完成する。



藁鉄砲作りの様子



祖父母参観での藁鉄砲作りの様子



吉田保育園祖父母参観

2) 本市の特徴あるワラデッポウ

ワラデッポウは、掛け声や藁鉄砲を叩く際の子供たちの並び方など、地域によってその特徴が異なるが、本市では自治会単位で行っているところが多い。ここでは、掛け声に特徴のある磯部、藁鉄砲を叩くときの子供たちの並び方に特徴のある上吉田、ルートの廻り方に特徴のある本吉田の3つの集落のワラデッポウを取りあげる。

原則として子供たちは、地区の全戸を徒歩で廻るが、地区によっては、班分けを行い分担して廻るところや、自転車や自動車で行くところもある。訪問先の各戸では、すすき、団子、けんちん汁、新米、柿などの供物がそなえられ、子供たちを出迎える。また、十五夜、十三夜で使い終わった藁鉄砲を、柿の木などの木に吊るすことが風習として残っている。

ワラデッポウは、活動の拠点となる社寺や伝統的な農家の建築形式を残す歴史的建造物を背景に、子供たちが藁鉄砲を持って各戸をまわる様子や、掛け声とともに地面を叩く時に出るパーンパーンという音、また、行事後、庭先の柿や栗の木に藁鉄砲が吊るされる風景がみられ、この地域の秋の風物詩となっている。



吉田地区の航空写真

<南河内町『南河内町史 民俗編（第六巻）』, 1995, 巻頭カラー写真2>



ワラデッポウ当日の供物



行事終了後、柿の木に吊るされた藁鉄砲

ワラデッポウのルート概要と歴史的建造物

	実施箇所	ルート	歴史的建造物
1	磯部	磯部公民館より南側の前坪、県道宇都宮結城線より西側の東坪、三王山南塚古墳より南側の馬場坪の3つの地域に分かれて徒歩でまわる。	・養心館
2	上吉田	自治会全体の40戸ほどを徒歩でまわる。お店や自動販売機の前など目立つものがあるとところに集合する。	・天満宮神社 ・小口勝家住宅
3	本吉田(北) (別当河原も含む)	廻る範囲が広いので、遠方は自動車移動する。その年の年長者の家をゴールとするため、年によって若干ルートが異なる。例年は別当河原の子供たちと一緒に廻るが、平成30年(2018)は別々にまわった。	・林安雄家住宅 ・吉田八幡宮

磯部のワラデッポウ

磯部は西側に田川が南流し、集落が河川に近接して立地していることから、古くから洪水の被害が絶えなかった地域である。

この集落は、磯部公民館より南側の前坪、県道宇都宮結城線より西側の東坪、三王山南塚古墳より南側の馬場坪の3つの地区から成る。これらの地区は小学校の登校班と一致し、磯部では3つの地区、すなわち登校班ごとにワラデッポウを行っている。



磯部の集落と周辺環境

①関連する歴史的建造物

①-1 養心館

ワラデッポウの集合場所となり、スタート地点にもなる建物である。下野市の社会科副読本『わたしたちの下野市』によると、養心館は昭和38年(1963)の建築とされ、建物の正面西側に設けられている岩瀬銚太郎像にもその刻銘がある。集落のほぼ中央、T字路に北を正面として立地する。桁行8間・梁間5間、木造平屋建、切妻造棧瓦葺の建物で、北面中央に入口を設ける。

養心館は、栃木県における剣道育ての親といわれる岩瀬銚太郎と彼の教えを受け継いだ弟子たちによ



養心館

って設立された剣道場である。彼らは子供たちを健全に育てたいという強い信念を持ち、「礼に始まり、礼に終わる剣道」を掲げ、剣道の指導に励んだといい、周辺地域を含めた剣道の拠点であるとともに、地域生活の拠点にもなっているといえる。



養心館道場内観

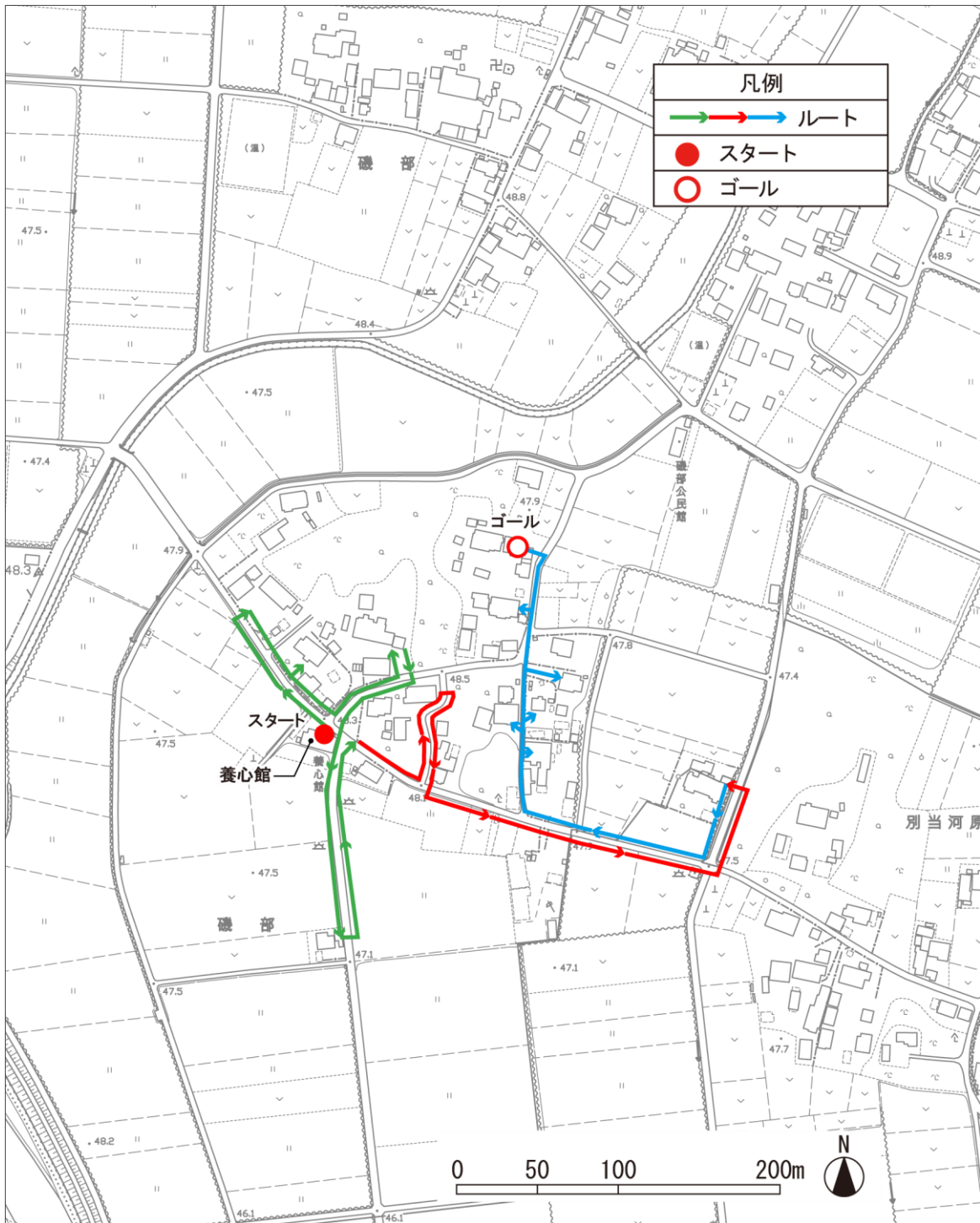
②磯部のワラデッポウの流れ

磯部公民館より南側の前坪における十五夜を例にあげる。当日は養心館に集合して、徒歩で各戸を廻る。ルートは夏に行われる祭礼の神輿渡御の巡行ルートと同様である。各戸に到着すると、庭先から声を掛け、住人が出て来ない場合は呼び鈴を押す。住人が出てきた後、「こんばんは」と挨拶してから、藁鉄砲を地面に叩きながら「十五夜のワラデッポウ。大麦・小麦・三角畑に蕎麦当たれ。」と2回繰り返し、最後に「おまけに1つ、2つ、3つ、4つ、5つ、6つ、7つ、8つ、9つ、10、11、12、13、14、15」と掛け声を1回かける。訪問先では外で住人が待っていることも多く、その場合も挨拶してから始める。このように、掛け声の最後に数字を唱える集落はいくつかあるが、15まで唱えるのは磯部のみである。なお、十三夜では数が13までとなる。



ワラデッポウの様子

その後、小学6年生の登校班の班長が代表としてお小遣いを受け取り、次の訪問先へ向かう。全戸への訪問終了後、登校班長宅に集合し、受け取ったお小遣いを班長が分配し、解散する。なお、参加する子供たちが受け取る金額は年齢に関わらずほぼ同額である。



磯部のワラデツボウ/ルートと歴史的建造物の分布

上吉田のワラデッポウ

上吉田の集落は鬼怒川右岸に位置する。現在も集落の周辺は水田となっているが、この地域は、鬼怒川の氾濫原にあたり、現在でもその地形から集落がこの氾濫原のなかでも微高地に形成されていることがわかる。

この地域では弥生時代以降の土器が散見されることが確認されており、約2千年近くこの地形は変化していないと考えられている。そして現在の集落は、近世からの集落の空間構成を継承している地域であるといえる。



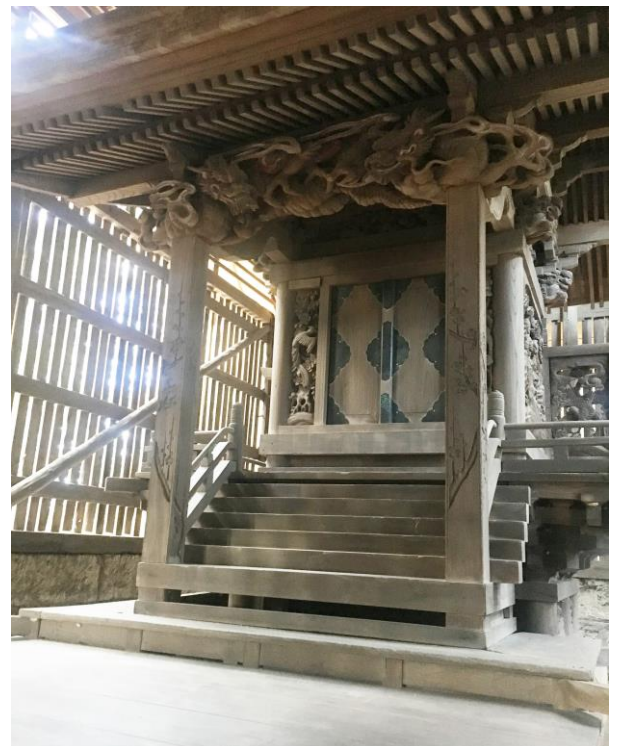
上吉田の集落と周辺環境

①関連する建造物

①-1 天満宮神社

上吉田の中央北寄り、集落から東へ真岡市に通じる道路沿いにあり、かつては上吉田村の村社として崇敬された神社である。天神様とも呼ばれ、菅原道真を主祭神とするが境内には八幡神社、大杉神社、弁天神社、疱瘡神社等の小規模な境内社が所在する。

言い伝えによると、天満宮の起源は弘安元年（1278）に山城（京都）の北野天満宮より勧請し、この地の鎮守としたものであるという。本殿および拝殿は道路に面して設けられた鳥居を経て北に延びる参道の突き当りに南面して建つ。鳥居は、稚児柱や、笠木に屋根を設ける形式の両部鳥居で、一般的な鳥居よりも少し高さが低く、特徴的な景観を作り出している。現存する本殿は、木造切妻造垂鉛鉄板葺の建物に覆われ、社殿の状態は比較的良好であり、一間社流造、屋根は柿葺、前面に一間の向拝を設けている。また胴羽目（板壁部分）や脇障子などに豊富な彫刻が施されており、建築様式からみても江戸時代後期あるいは末期のものと考えられている。



天満宮神社本殿

拝殿は、桁行3間・梁間2間の寄棟造平入垂鉛鉄板葺の建物で、詳細な建築年代は不明だが、昭和38年（1963）刊行の『栃木県神社誌』の天満宮の拝殿についての記載は、その規模などが現存建物の形式と一致することから、少なくとも昭和38年（1963）年以前の建築であるといえる。

①-2 小口勝家住宅

天満宮神社の南西 250m ほどの、南北方向の通りの東側に立地する農家である。通りに面して長屋門を設け、屋敷地のほぼ中央東寄りに主屋、長屋門の南には屋外の便所、同じく北側には新旧の肥料舎、倉庫などが4棟ほど並ぶ。そして主屋の北と屋敷地の東側には平地林が広がり、南東には土蔵が配される。主屋の北側にはかつては土蔵が建っていたところに昭和40年代に建て替えられたほぼ同規模の大谷石を外壁とした蔵や、屋敷神である稻荷の石祠などが鎮座する。



小口勝家住宅主屋

主屋は桁行9間半・梁間4間半の2階建平入で比較的大規模である。屋根は寄棟造棧瓦葺で、軒は出桁造としている。建築年代は町史編さん時の調査では明治30年(1897)とされたが、近年小屋裏で明治17年(1884)の棟札が確認されたという。

町史などによると、主屋のほかの屋敷地内の歴史的建造物としては、土蔵が明治15年(1882)、肥料舎が昭和25年(1950)、長屋門は江戸時代末期頃の建築とされている。

②上吉田のワラデッポウの流れ

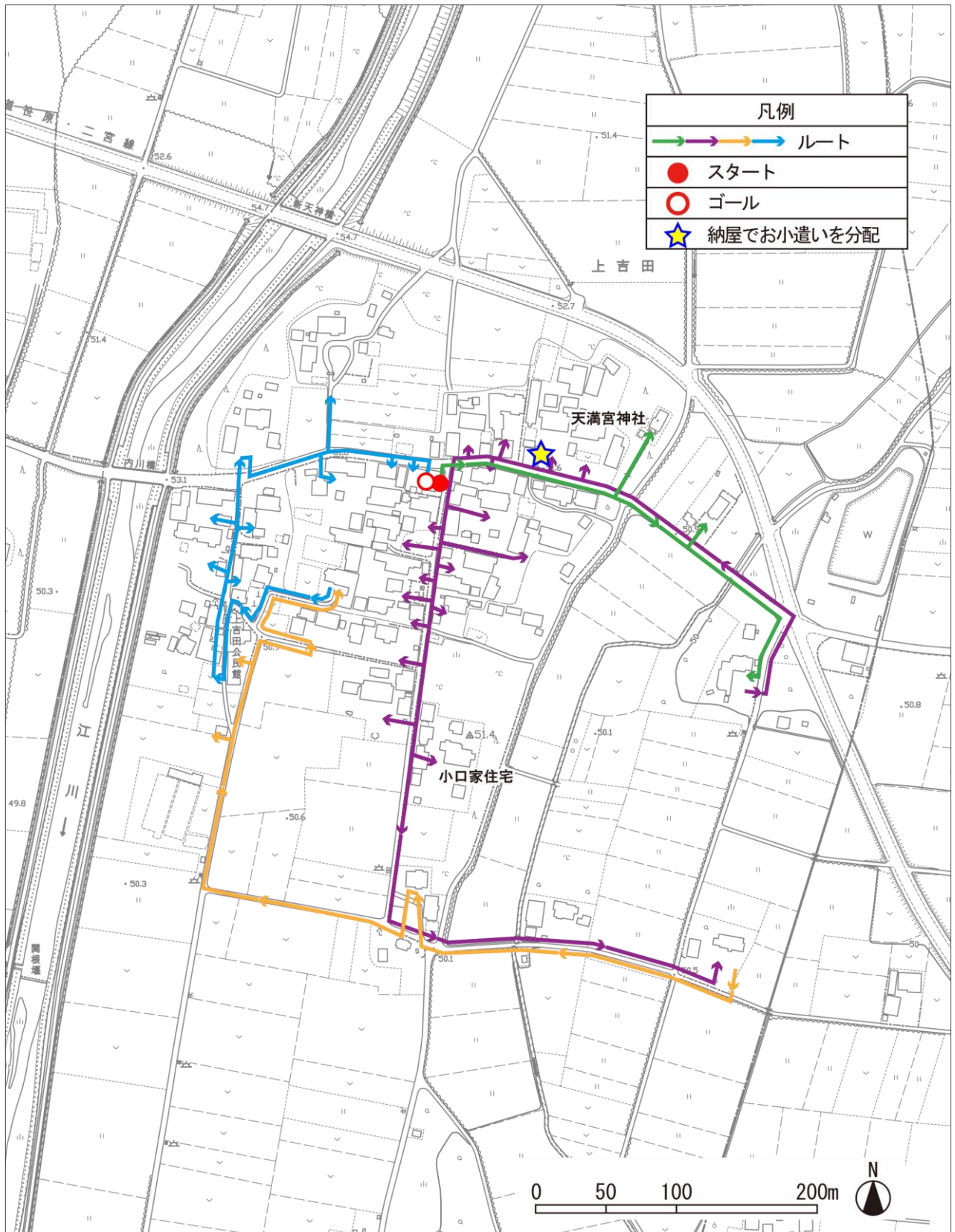
この集落は住宅が比較的密集しており、子供たちは各戸を徒歩で廻る。上吉田のワラデッポウの特徴は、各戸を廻る前に神社でワラデッポウを行うことである。子供たちは集合場所(杉山商店前)に集まると、集落の氏神が祀られている天満宮神社に向かう。神社に到着すると、鳥居の前で円になり藁鉄砲を叩きながら、「大麦、小麦、三角畑に蕎麦あたれ、1、2の3」と2回掛け声を唱えた後、各戸を訪問する。訪問の手順は磯部と同様で、庭先で挨拶をし、呼び鈴を鳴らして住人が出てくるのを待ち、出てきたら掛け声をかけ始める。神社で行ったように庭先で円になってワラデッポウを行い、終了後にお小遣いを受け取る。



ワラデッポウの様子(天満宮神社にて)

小口勝家住宅は集落のほぼ中央にあり、住宅密集しているところから少し南に下ったところに位置する。周囲には田畑が広がり、伝統的な農村景観を背景にワラデッポウが行われている。

全戸への訪問が終了すると、小学6年生が受け取ったお小遣いを分配して解散する。なお、お小遣いは学年が高くなるにつれて多くなる。



上吉田のワラデッポウ/ルートと歴史的建造物の分布

本吉田北のワラデッポウ

本吉田の集落は、本市南東部に位置し、上吉田の集落と同様、田川と鬼怒川に挟まれた低地の中の微高地に集落が形成されている。

吉田八幡宮は集落の北端に配され、集落は現在の県道宇都宮結城線に沿って南に延びている。地形を詳細に観察すると南北に延びる微高地の中央に県道が敷設され、その両側に集落が広がっている。



本吉田の集落と周辺環境

①関連する建造物

①-1 林安雄家住宅

林安雄家住宅の立地や特徴については、第2章第3節第2項で述べたとおりである。



林安雄家住宅主屋

①-2 吉田八幡宮

吉田八幡宮の立地や特徴については、第2章第3節第2項で述べたとおりである。



吉田八幡宮本殿

②本吉田北のワラデッポウの流れ

本吉田北は広範囲に民家が点在しているため、現在は民家が集中する県道周辺を徒歩で廻り、それ以外の地域は自動車を使用している。なお、西側に位置する別当河原の子供たちと一緒に廻るのが基本であるが、平成30年（2018）は別であった。

磯部、上吉田と同様に庭先にて挨拶をし、呼び鈴を押すが、住人が出てくる前に掛け声をかけ始め、藁鉄砲を打つ。前述の2つの集落は決まった掛け声を2回かけて終了するが、本吉田北では、訪問先の住人が「ご苦労様」や「ありがとう」と労いの声をかけてお小遣いを年長者に渡すまで「大麦、小麦、十五夜の藁鉄砲、三角畑に蕎麦あたれ」と繰り返し、地面に藁鉄砲を叩き続ける。

江川東側にある家をまわったあとの後半のワラデッポウのルート上には、吉田八幡宮が所在する。吉田八幡宮のつきあたりを東に進む。この時間には日も暮れて、夜空に月がかかり、子供たちが月を見ながらにぎやかに家々をまわる独特な風景を見ることができる。

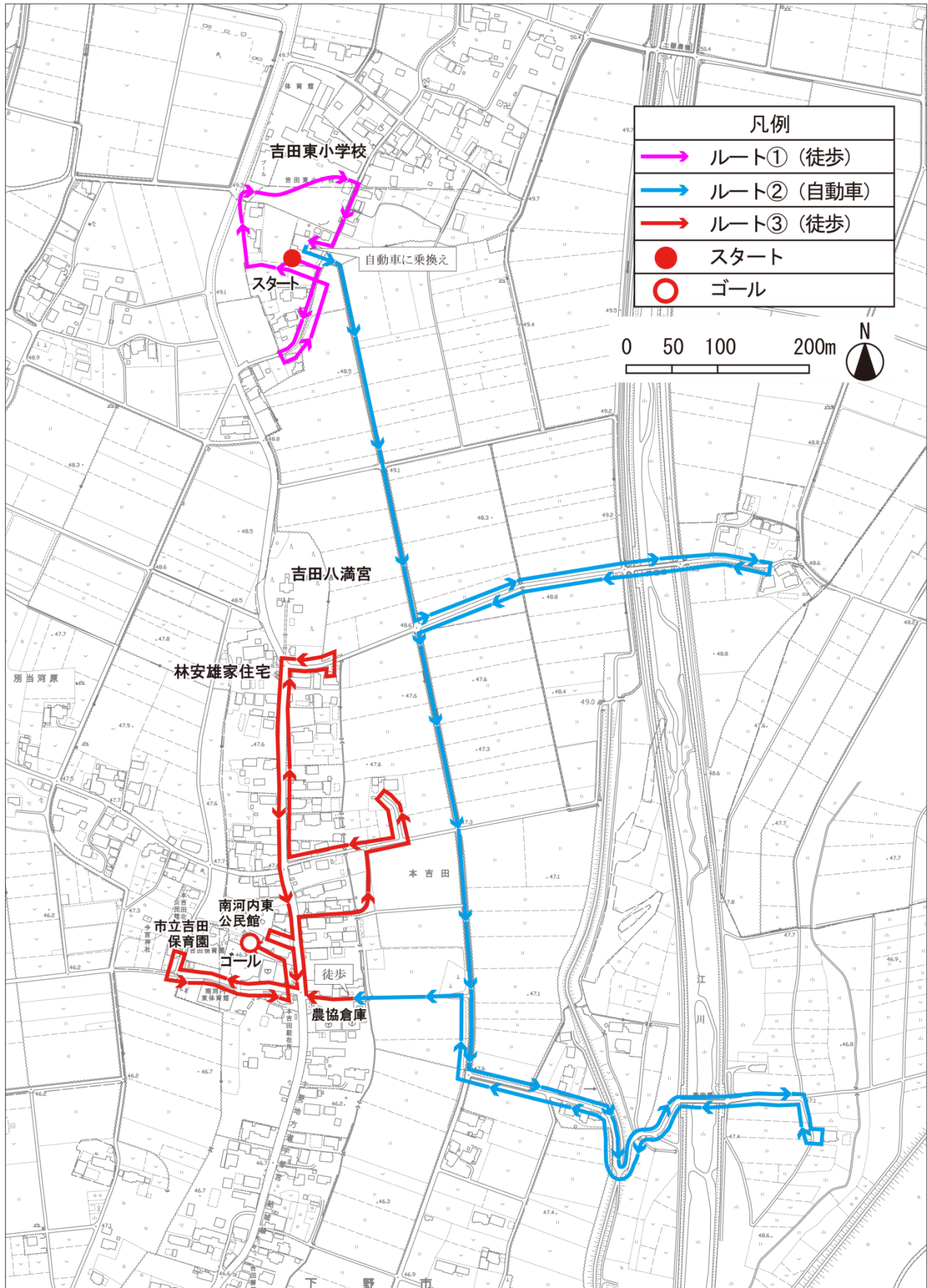
最後の訪問先はワラデッポウをまわる子供の中の年長者宅と決まっている。年長者宅でのワラデッポウが終了すると、年長者が受け取ったお小遣いを分配して解散する。お小遣いは上吉田と同様、学年が高くなるにつれて多くなる。



ワラデッポウの様子（本吉田北）



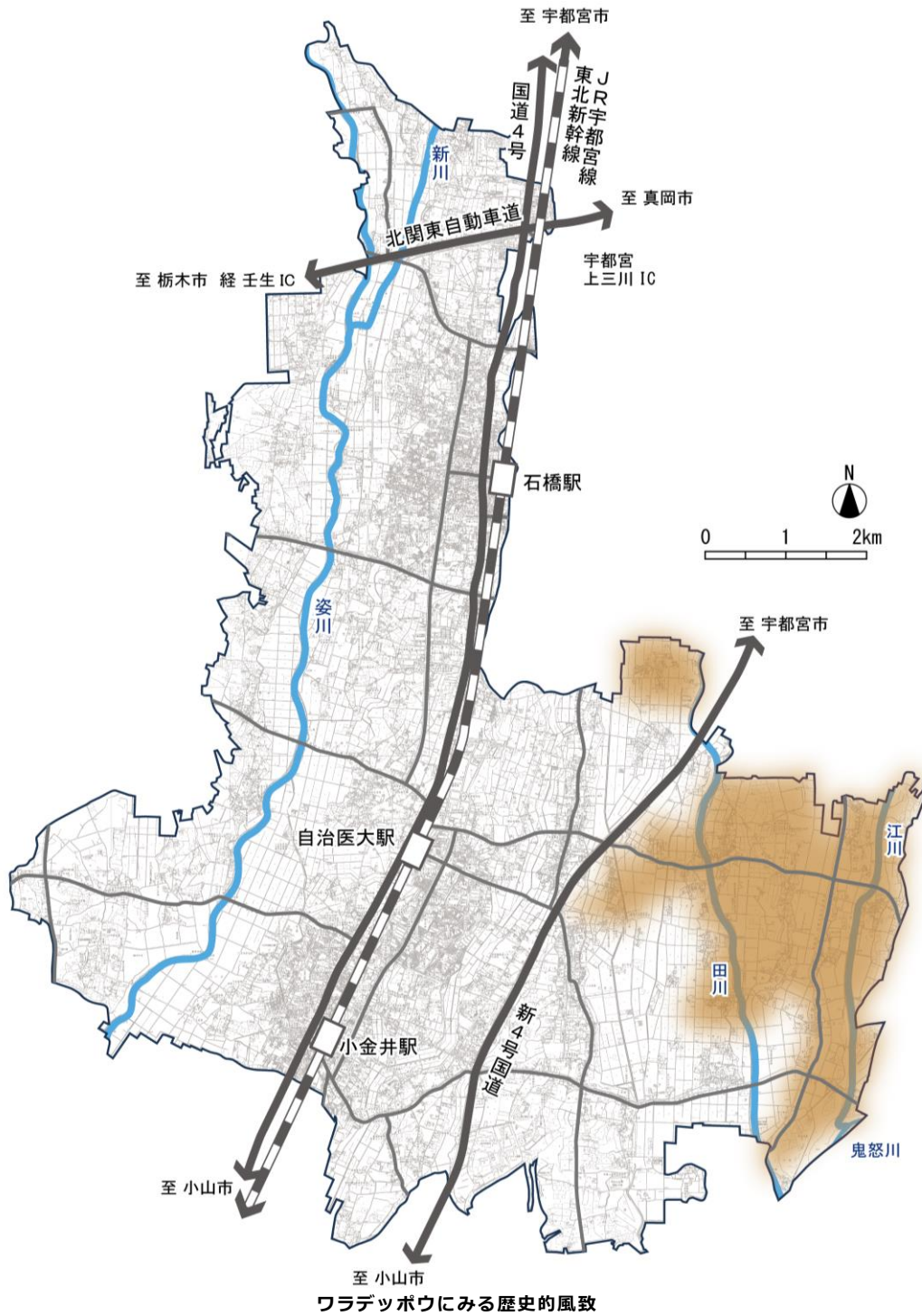
吉田八幡宮の向かい側の民家をまわる子供たち（本吉田北）



本吉田 (北) のワラデッポウ/ルートと歴史的建造物の分布

(3) まとめ

ワラデッポウの行事は、^{かんがい}灌漑用水が発達した水田地帯である南河内地区の吉田地域と薬師寺地域の一部を中心に、豊作祈願や収穫の感謝をあらわす年中行事として現在まで継承されてきた。また、藁鉄砲制作は、保育園や小学校における祖父母参観などを通して親やお年寄りから子供たちへ伝承されている。子供たちが藁鉄砲を持って各戸をまわる様子や、掛け声とともに地面を叩く時に出るパーンパーンという音、また、行事後に庭先の柿や栗の木に藁鉄砲が吊るしてある景観は、本市の歴史的風致をつくりだしている。



コラム

小学校におけるワラデッポウ学習

市立吉田東小学校では、祖父母参観の際に、祖父母や近所のお年寄りに教えてもらいながら藁鉄砲を作る。平成30年(2018)は秋に開催された吉田東小フェスティバルにおいて、祖父母を講師として招き、共に藁鉄砲作りを行った。また、総合的な学習の時間の授業や音楽の授業で、それぞれの地域の掛け声を歌ったり、掛け声の替え歌を作るなど、ワラデッポウを身近に感じられるような授業を行っている。地域の伝統、文化を大切にする心をはぐくむための取り組みが行われている。

